



Panasonic NPOサポートファンド 子ども分野 2011年助成事業

成果報告会

■助成事業名 「不登校の子どもたちの編集部
と若者編集部の持続的発展に
向けた組織基盤強化」

■助成団体名 NPO法人 全国不登校新聞社

2012年3月2日(金)



組織のミッションとビジョン

- 組織のミッション

「不登校・ひきこもりでも、安心できる社会の創造」

- ミッションに向けて必要な活動が...

- ①不登校・ひきこもり(当事者)が求める情報発信
- ②当事者の自己実現ができる場の創設と発展

本助成事業は「自己実現の場」を発展させ、組織基盤を強化することを目的にしている。

子ども若者編集部のようす



取材のようす



活動発表



組織基盤強化の流れ・助成1年目

◎助成一年目

「不登校・ひきこもりの子ども若者編集部の持続的発展に向けた準備活動」

◎背景

- ・13年前(創刊年)に子ども若者編集部が創設
- ・しかし、スタッフが編集の片手間でサポート
- ・結果、活動やメンバーが安定しなかった。



組織基盤強化の流れ・助成1年目

◎目標

子どもたちのバックアップ体制を整え、持続発展に向けた環境整備を進めること

◎実施概要と成果

- ・インフラ整備（子ども用PCを配置、交通費支給）
- ・組織基盤強化に向けた「実行委員会」を設置
- ・これだけでも、子ども編集部員は20名から41名に増加。活動も年間12本の企画達成から32本へ。



組織基盤強化の流れ・助成2年目

◎背景

- ・自己実現を達成できる環境が整った。
- ・しかし「自己実現しやすいか」には疑問符が残る
- ・「自己実現しやすい場」に向けての取り組み必要

◎そこで、2年目は「子ども若者が自己実現しやすい環境整備」が目標となった



組織基盤強化・助成2年目

- ◎自己実現しやすい環境整備に向けて
 - ・子どもたちの年間育成プランの作成
 - ・日常的なつながりを生む「SNS」の構築
 - ・財政強化に向け、合宿創設、コストカットを実施
 - ・事務局会議の効率化と締切日設定

子どもたち向けに「年間講座」とSNSによって活動の活性化を目指した。また事務局会議(週1回30分)を設け、仕事毎に締切日を設け効率化を図った。



組織基盤強化の「成果」

- 編集部員 助成前20人、1年目41人、2年目57人
- 会議参加者 助成前39人、1年目134人、2年目272人
- 講座実施数 助成前 0回、1年目2回、2年目11回
- 企画本数 助成前12本、1年目32本、2年目53本
- 収益増 助成前 0円、1年目0円、2年目36万円

助成前と比べ、編集部員、企画本数、収益増などすべてに成果が見られた。とくに2年目は会議参加者(累計)が飛躍的に伸びた。



組織基盤強化の「財政強化」

- 親向け合宿 13万3500円 読者向けの合宿
- コストダウン 13万8000円 印刷費のダウン
- 手売り記事 5万3700円 イベント時に新聞販売
- その他 3万7000円

子どもたちの活動を支える交通費(目標値20万円)を達成するため上記4点を実施し、目標値を上回ることができた。



組織基盤強化の「課題」

- 活動面 「自立的な取材」ができてない
- 財政面 成果は「パイロット版」止まり
- 事務局体制 ノウハウを蓄積する仕組みがない

助成前と比べ活動面は堅調に活性化した。しかし「自立的な取材」を可能にしたわけではなく、財政基盤強化も労力に比べた収益が得られていない。また子どもをサポートしてきたノウハウを蓄積していないのも課題



組織基盤強化の「今後の取り組み」

- 活動面 自立的な取材体制の構築
- 財政面 パイロット版から定例化へ
- 事務局体制 自己分析力の強化

今後は、子どもたちの「自主性」を最大限に発揮できる環境を整えること、安定した収益増に向け事業をブラッシュアップすること。これらを担えるだけの「自己分析力の強化」に向け、事務局体制の効率化を行っていく。